

中部 I ブロック
 地域の未来についての懇談会
 (通算第 1 2 4 回)



開催日	平成 2 9 年 1 2 月 2 0 日 (水)
開催時間	午後 6 時 3 0 分 ~ 午後 8 時 3 0 分
会場	中部公民館第四講座室
参加者	3 8 名

意見・質問等	市側の発言
<p>1. 大雨が降った日、夜中に住民から避難したいという要望があり、市に話をしたが、対応の仕方が考えさせられたので、基本的には決まっていると思うが、細かく対処し、指示を各自治会にしてほしいことについて</p>	<p>1. 地域ごとのより細かな指示をどう出すかということは、重要な指摘である。行政が最新の気象情報等を地域にお伝えし、後はその地域の自主防災防犯組織が日頃から情報網、ネットワークをどのように地域の中でつくっていただくかがポイントになる。ネットワークに入っていない方への行政からの直接伝達も組み合わせて、防災力を高めていきたい。</p>
<p>2. 下水道は奈良市だけでなく全国的にも半分以上が老朽化していつ壊れても不思議ではないと新聞等にもよく出ているが、現場で働く人は大事なので、いざというときに対処できるよう、最低限の人数は確保してほしいことについて</p>	<p>2. 奈良市は人口急増の中で施設を増やしてきて、下水道だけでなく、道路、橋梁などすべてが老朽化の状態になっている。国の支援を受けながら老朽化対策を進めており、財源不足とのバランスをとりながら行っていきたい。また、技術の伝承は大きなテーマになっており、実施していかなければならない。職員数は頑張りながら減らしてきたが、そのペースを見直しながら行っていきたい。</p>
<p>3. 家のトイレはほとんどが洋式なので、和式が使えない人もいるが、小学校のトイレは洋式になっていないところが多い。小学校は避難所になっており、防災の関連からも洋式化を進めてほしいことについて</p>	<p>3. 学校は、つい最近までは耐震化の工事を最優先で行ってきたが、ほぼ完了している。次はトイレの洋式化に取り組んでいるが、全部で小学校が 4 3 校、中学校が 2 1 校あるので、年次計画で行っている。学校は避難所としての機能があるので、特に体育館のトイレを教室よりも優先して、4 年ぐらいで全部行うということで順次実施している。</p>
<p>4. ひとり住まいの高齢者が、警報の段階で避難したいと言われる場合、市はどう対処されるのかについて</p>	<p>4. 避難については基本的に段階がある。避難準備情報を出してから、開設を決めた避難所について担当職員に連絡し、その鍵を開け受入態勢をとるように指示する。奈良市一斉に全部開設するというわけではない。個別の悩みをおっしゃる方もいるので、臨機応変に対応している。</p>

5. 何をするにもお金がかかるので、市として税金ばかりで補うのではなく、お金がとれる事業も考える必要があるのではないかということについて

6. 学校を統合すると、若い人が多く出ていくのではないか。私たちのまちの一番の課題である、いかにして若い人をまちにとどめて、地域のリーダーに育てていくかについて

7. 私の地区では地域自治協議会に熱心で、既に大なり小なりよく似たことをしているが、市はどの程度関与してもらえるのかについて

8. 地域自治協議会を立ち上げなくても、4団体の長がしっかりしていたら必要がないのではないか。また1人の人が役員を兼ねているところが結構あり、新しい意見が出てこないことについて

9. 今までは地域ミーティングがあり、地域の問題を解決に向けてきた。地域自治協議会で話し合っても、要望書を担当部に出すだけでは解決しない問題も多いことについて

10. 現在中学校単位で学校教育協議会を行っているが、そこへ合流してコミュニティ・スクールの組織をつくってはどうかということについて

5. 歳入を増やし、歳出を減らす方法がいろいろあるように思うので、アイデアをまたぜひ掘り起こしていきたい。

6. やはり質の高い公教育を実現しなければいけない。小規模の学校だけで教育を保障するのではなく、できるだけ多くの子どもたちが集まり切磋琢磨する教育環境を整える中で、今後のAIとかIoTが社会の動きをつくっていく時代にどう生きていけるかを考えた教育を行い、リーダーを育てたい。

7. 市は地域の実情・要望に応じて、いろいろな形のワークショップを行っているが、地域自治協議会の準備会を立ち上げてもらうための事務経費を、来年に向けて予算要求という形で考えている。また、活動拠点の確保についても、連合会とともに検討している。来年度に準備会をつくっていただくので、いいモデルをお示しして、市も一緒に考えていきたい。

8. うまくいっているところは、もちろんそれで現在はいいかもしれないが、高齢化が進む中で将来を見越すことも必要である。今までの状況と大分違ってきている。地域のことは地域の人たちが考える住民自治の考え方により、地域ごとのオーダーメイドの自治ができるのではないか。1人の人に権限が集中するという心配もわかるが、地域自治協議会はだれかをトップにしたピラミッド型の組織ではない。

9. 今はそれぞれの団体の要望をそれぞれの担当課が聞いているが、できれば地区の方でも1つの窓口、市の方も1つの窓口でしっかり対応できるというのが理想なので、そういう方向性を持った上で行う必要があると考える。

10. 奈良市はすべての中学校区に学校支援地域本部事業による学校支援組織ができ上がっている。名前はよく似ているが、コミュニティ・スクールは学校の運営に参画いただくということであり、車の両輪であると思っていただければいい。

11. 地域包括ケアシステムを
推進してほしいことについて

11. 地域包括支援センターの機能の充実はもちろん
であるが、地域で高齢者を支えている方、障害者も含
めて、相談窓口の一本化を図れるような体制をつくっ
ていきたい。